



資源循環事業

RESOURCE CIRCULATION BUSINESS

金属資源循環

◆ 競争優位性(強み)

01. 川上から川下まで一貫したリサイクル体制

収集・選別から加工・販売までの大部分を自社グループ内で完結でき、安定的かつ高品質なリサイクル原料を供給可能。

02. 多様な廃棄物への対応力と技術力

RPF母材をはじめ、金属・プラスチック・紙など幅広い資源に対応。再資源化率の高さや工程管理の精度で競合優位性を確保。グループ内や協力業者のネットワークで、広域案件にも対応。

03. 顧客企業への提案力と透明性

処理コスト削減や環境負荷低減を行えるソリューションを提供し、サステナビリティやESG対応に強い企業からも評価されやすい。



持続可能な未来へ、「変わる」社会と共に「変わる」エコネコル

APPROACH 01 | 取り組み 01

不要物処理のコストを即時に見積もり「エコミツ」

(株)エコデモは、オフィス・病院などの解体・片付け事業を手がけ、廃棄物処理とリサイクルを通じて環境負荷の低減に取り組む企業です。その新サービス「エコミツ」は、2025年8月20日に提供を開始。オフィス移転・レイアウト変更・大掃除などで発生する不要物について、Web上で処分コストの概算(処分費・搬出作業費・運搬費等)を即時シミュレーション可能なシステムです。現地調査や複数業者への見積もり取得といった作業が不要となることで、総務・ファシリティ部門の業務効率および意思決定スピードの向上が期待できます。社内裏議・予算策定の透明性を高める点も特徴です。

▶ エコミツ … <https://eco-demo.jp/ecomitsu/>

APPROACH 02 | 取り組み 02

RPF新工場と制服リサイクルの挑戦

(株)エコネコルでは、混材や汚れ品などマテリアルリサイクルが難しい廃棄物を石炭代替燃料RPFとして再資源化しています。プラ新法やESG要請を背景に、製紙・セメントなど熱多消費産業では低炭素燃料への転換が進み、製紙工場が集積する富士地域は需要地に近接し輸送・コスト・CO₂削減に優位性があります。こうしたニーズに応えるため、2025年に富士市で新工場を稼働。月1,700トン規模の処理能力を備え、RE100工場として低炭素・安定供給を実現しました。さらに企業制服やユニフォームも破碎処理により情報漏洩リスクを防ぎ、安全かつ環境負荷の少ない形でRPF化。処理とセキュリティ、環境対応を同時に満たす仕組みを提供しています。



RPF

APPROACH 03 | 取り組み 03

広域案件を支えるエコネコルの体制

(株)エコネコルは、全国規模での資源循環ニーズに応えるため、支社間の連携を強化しています。2024年7月には松本支社と函館支社を新設し、既存拠点とのネットワークを拡充。これにより、地域ごとの特性に応じた柔軟な対応と、全国一貫したリサイクルサービスの提供が可能となりました。さらに、協力業者との協力体制も組み合わせることで、大規模かつ広範囲な案件にも安定的に対応。拠点拡大と連携強化により、顧客の利便性と持続可能な資源循環を両立しています。



イントロダクション

目次・編集方針

Our Concept

エンビプログループのあゆみ

エンビプログループの成長戦略

エンビプログループの事業

ESGの取り組み

環境

社会

ガバナンス

データセクション

◆ 背景・社会課題(事業環境)

国内では電動化や再エネ普及により銅・アルミ等の金属需要が高まり、供給不安や環境負荷の増大が課題となっています。その解決策として、廃棄物からの金属リサイクルが重要視されています。(株)エコネコルでは、解体物や産業廃棄物から高品質な資源を回収し、持続可能な資源循環に貢献しています。



INTERVIEW

富士RPF工場の新稼働によって 加速する地域の カーボンニュートラルと循環型社会

株式会社エコネコル
静岡支社 生産部長
宮木 正栄

静岡支社 RPF生産課長
赤池 誠

エコネコルは、2025年9月に富士RPF工場を本格稼働させ、富士・富士宮地域の製紙会社を中心にRPFを供給しています。RPFは廃プラスチックや紙くずなどの産業廃棄物を原料とした固形燃料であり、石炭比でCO₂を約3割削減できます。新工場には欧州製の最新破碎機を2基導入し、従来3直体制で月産1,000トン弱だった生産能力が、2直体制で1,400トンまで向上。最終的には月産2,100トンを目指しています。

新工場の設計には20年にわたるRPF製造の経験を活かし、異物混入を防ぐ最適な動線を実現。密閉型コンベアや自動清掃

システムで粉塵飛散を抑制し、職場環境と安全性を大幅に改善しました。工場屋根の太陽光発電でRE100を達成し、定期的な騒音・振動測定により地域との共生にも配慮しています。

私たちの最大の強みは、「もったいないを究める」心のもと培われた独自の選別技術です。専用機械だけでなく食品業界の機械を転用・カスタマイズし、創意工夫で他社にない付加価値を創出。従来の技術に加えて新たに脱水機も導入を進めしており、これまで処理が困難だった水分を含む廃棄物も資源化が可能となります。

人材育成では、ベトナム人技能実習生を受け入れ、特定技能

実習生への育成プログラムを確立。2025年11月から新工場で4名が勤務を開始しました。競争環境が激化する中、こうして技術革新と人材育成に注力することで、業界をリードし続けています。

エコネコルはグループが掲げる「変わる」をテーマに、今後は「選択」と「集中」により事業を進化させ、地域で「なくてはならない存在」となることを目指します。そして、地域企業の廃棄物課題を解決し、持続可能な循環型社会の実現に向けて挑戦を続けます。

[イントロダクション](#)

[目次・編集方針](#)

[Our Concept](#)

[エンビプログループのあゆみ](#)

[エンビプログループの成長戦略](#)

[エンビプログループの事業](#)

[ESGの取り組み](#)

[環境](#)

[社会](#)

[ガバナンス](#)

[データセクション](#)

ポリマー資源循環



◆ 競争優位性(強み)

01. 現場施工による一貫体制

自社製造のゴムチップを使用し、製造から施工までワンストップで対応。

02. 脱硫技術による再資源化

廃材を脱硫処理し、再生コンパウンドとして活用。

03. 高品質な樹脂リサイクル

廃棄樹脂や工程廃材を、用途に応じた性能を持つ再生材として提供。

◆ 背景・社会課題(事業環境)

近年、EUDR規制をはじめとする環境規制が世界的に強化され、循環型社会への移行が加速しています。ポリマーの再利用は「推奨」から「必須」へと変化し、企業には廃棄物を資源として活用する仕組みづくりが求められています。これは環境対応だけでなく、企業価値の向上にも直結する重要な課題です。

「廃棄を資源へ、資源を価値へ」を基本方針とし、ゴム・樹脂の両分野で再資源化と高付加価値化を推進。環境課題への対応と同時に、持続的な事業成長を実現する“ポリマー再生素材メーカー”として、社会的使命と経済的成长の両立を目指します。

APPROACH 01 | 取り組み 01

全国展開へ向けた 施工事業の基盤強化

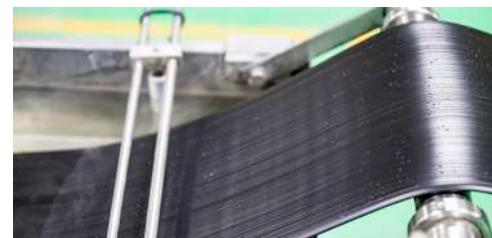
日東化工(株)は、公共施設や保育園、公園などへの施工実績を売上・認知ともに拡大しました。今後も、遮熱性・透水性・安全性・自由(デザイン)施工性に優れた主力製品と位置づけ、一貫体制が出来る施工メーカーとして自治体や民間施設への提案を強化。展示会出展や施工事例の発信を通じてブランド力を高め、全国展開を加速させ、5年後の売上10億円達成に向けた基盤づくりを進めます。



APPROACH 02 | 取り組み 02

脱硫技術で進める 循環型モノづくり

脱硫技術を活用した廃材の再資源化により、廃棄量削減と環境負荷低減を両立。前橋・湘南両工場を結ぶ循環フローを構築し、工程廃材ゼロを目指す取り組みを推進しました。今後は、業界全体での廃棄物削減モデルへと発展させるとともに、再生コンパウンドの品質向上と用途拡大を図ります。持続可能な事業成長と社会的価値の創出を目指します。



APPROACH 03 | 取り組み 03

再生コンパウンドの高付加価値化と 循環モデルの拡大

廃棄樹脂や工程廃材を用途に応じた物性を持つ再生コンパウンドとして提供し、高品質なりサイクル材の安定供給を実現しました。今後は、物性設計技術を活かした新たな用途開発に取り組み、再生材の付加価値を高めています。循環型社会の実現に向けて、環境対応型製品のラインアップを拡充し、持続可能な素材供給体制を構築。業界内外のパートナーと連携し、資源循環モデルの拡大を目指します。



イントロダクション

目次・編集方針

Our Concept

エンビプログループのあゆみ

エンビプログループの成長戦略

エンビプログループの事業

ESGの取り組み

環境

社会

ガバナンス

データセクション

INTERVIEW

ゴムが資源に変わると、未来が変わる
湘南と前橋の一気通貫システムで
業界を革新

日東化工株式会社

湘南工場 第一営業部 部長

関口 佳弘

前橋工場 第一製造グループ グループマネージャー

坂田 一賢

日東化工では、自動車部品メーカーなどの工場で廃棄されていた工程廃材や不良品を活用したリサイクルの取り組みを進めています。例えば、前橋工場では、独自の脱硫技術を用いて、通常再成型ができない加硫済のゴムの再生を実現しています。湘南工場では、ゴムメーカーとしての知見を活かしてお客様のニーズや求められる物性をヒアリング。その上でお客様の求める物性になるように配合設計を行いゴムコンパウンドとして、再生しています。この一連の取り組みにより、対象となる一部の製品では「廃棄ゼロ」を実現しました。

当リサイクルプロジェクトにおいて、湘南工場の営業部門では、まずお客様の廃棄物に対する意識改革から始めました。これまで処理費用がかかっていた廃棄物が、価値ある再生原料へお戻しするスキームの価値を、技術部門だけでなく購買やステナビリティ推進室など複数部門へ横断的かつ丁寧に説明。

コストメリットのみならず付加価値のあるポリマー再生素材メーカーとしての認知獲得に努め、自動車部品メーカーを中心にお目を集めています。

一方、前橋工場の技術開発部門では、ゴムリサイクルという技術的に難易度の高い分野に挑戦しています。「まずはトライしてみよう」という姿勢を大切に、これまで再生不可能とされていたゴムの種類の再生にも取り組みを進めております。約20年の経験を活かしトライアルアンドエラーを繰り返しながらお客様の品質基準を満たすため、時には十数回に及ぶ試作を重ねることもあります。それでもこれまでの知識と経験を活かし、改善を繰り返すことで、脱硫技術の向上と品質の安定化を実現してきました。さらに、湘南工場との連携により、一気通貫のクローズドループを構築しました。

私たち日東化工は今後も「ポリマー再生素材メーカーに変わる」

というビジョンのもと、湘南工場と前橋工場の強みを融合したこのサイクルを注力事業として推進。そして、マテリアルリサイクルとケミカルリサイクルそれぞれの特性を活かし、最適な手法を選択することで、持続可能な循環型社会の実現を目指します。



イントロダクション

目次・編集方針

Our Concept

エンビプログループのあゆみ

エンビプログループの成長戦略

エンビプログループの事業

ESGの取り組み

環境

社会

ガバナンス

データセクション

資源循環の処理・加工フロー

